

(国営讃岐まんのう公園)

満濃池沿いの『湖畔の森』をオープンします。

国土交通省四国地方整備局国営讃岐まんのう公園事務所が整備を進めていました「湖畔の森（約40ha）」を3月31日（月）9時30分よりオープンいたします。

●「湖畔の森」は満濃池・象頭山等の景観、満濃池沿いの自然環境が身近に親しめるゾーンです。

●「湖畔の森」のオープンにより国営讃岐まんのう公園の開園面積は約154haとなります。

●主な施設

- ・ 自転車道 巾 3.0m 長さ 600m
- ・ 池見の丘（満濃池湖面との高低差は約30m）
- ・ 遊歩道 巾 0.9～1.5m 長さ 約2.1km
- ・ 岬の栈橋 巾 2.0～4.5m 長さ 約40m
- ・ 自転車歩行車道（無料区域） 巾 3.5m 長さ 約1.5km

●施設の位置等

別添「リーフレット」のとおり。

●当日の行事等

当日ご来園のお客様で先着300名に当公園のマスコットキャラクター「ドラ夢」からオリジナルコースター（間伐材使用）をプレゼントします。

平成20年3月26日

問い合わせ先

国土交通省四国地方整備局国営讃岐まんのう公園事務所

TEL 0877-79-2933

湖畔の森の整備内容(約40ha)

満濃池・象頭山等の景観、満濃池沿いの自然環境を生かし満濃池が身近に親しめる空間を創出しました。

満濃池及びその周辺の自然環境を一体的に保全・活用するため、湖畔ゾーンとそれに隣接する満濃池沿いの環境保全ゾーンを合わせ「湖畔の森」として、樹林管理やため池保全等の取組みを観察でき、環境教育にも役立つ遊歩道を整備したほか、様々な眺望スポットから満濃池等の景観を楽しめるとともに、小規模イベントの開催や休憩の場となる施設の整備を行いました。

なお、これらの整備にあたっては、1,300年の歴史を持つ満濃池の景観や希少生物の生育・生息地の保全をはじめ、自然地形の改変を抑えるなど自然環境の保全・活用に配慮しました。

施設の概要

(1) 満濃池展望遊歩道 (H17年4月開園済み)

全長約400m。バリアフリーの木製デッキで満濃池湖面との高低差は約40m。

(2) 自転車道

自転車で移動しながら、満濃池の眺望を楽しめるサイクリングコースです。管理用通路を兼用しています。

(3) 池見の丘

満濃池展望遊歩道よりさらに満濃池に近づき、広々とした満濃池のパノラマ景観が楽しめる眺望スポットです。

(4) 遊歩道 (まんのう森図鑑)

地域の代表的な樹林であるアカマツ、コナラ、ハンノキ、ヒノキ、スギ等の樹林を巡ることで、それぞれの樹林等の生態や役割等を肌で感じ、理解することができる遊歩道です。パノラマコース、アカマツ林と棚田コース、湖畔の里コースがあります。

また、湖畔の里では、カキ、クリ畑等の山の畑や、谷戸の水田、薪や炭を生産する薪炭林等、里山環境を維持する人為活動を行う場所で、活動に気軽に参加できます。

(5) 岬の栈橋

水際のデッキから満濃池を見渡すことのできる眺望スポットです。象頭山、満濃池堰堤を背景に池水面を眺められる格好の撮影スポットになるとともに、デッキ上で観月会等各種の小規模イベントを開催することができます。

(6) 自転車歩行者道 (無料区域)

満濃池周辺が有する自然や歴史・文化資産を地域外来訪者にも知ることのできる機会を増やし、興味を持ってもらう満濃池沿いの自転車歩行者道です。

自転車道 巾2.0m、歩行者道 巾1.5m。

水の歴史を今に伝える満濃池と湖畔の森。

讃岐地方のシンボル：満濃池を望む『湖畔の森』は、満濃池の雄大な眺望とこの地方特有の森林に生きる植物や動物を鑑賞するとともに先人達の偉業に思いをはせながら人と自然、水とのかかわりを考える探訪の場です。どうぞ、お楽しみください。



アイトトンボ



シレーガリアオガエル



チョウトンボ



タマムシ



オウゴンジ



ネジキ



ツルシンドウ



ユシガマズミ



キセルアザミ



朝の薄曇り、望む象頭山に染む夕日



満濃池展望遊歩道



★1 池見の丘



棚田の湿地



★2 絆の棧橋

各コースの特徴

パノラマコース (約30分)

パノラマコースでは、『満濃池展望遊歩道』、『池見の丘』といったスポットから、かんがい用ため池としては日本最大級の規模を誇る満濃池そして金鹿窟さんとしても有名な象頭山を望む大パノラマを楽しむことができます。『満濃池展望遊歩道』は、車イスによる利用が可能なバリアフリー施設です。



★1 池見の丘

アカマツ林と棚田コース (約60分)

アカマツ林と棚田コースでは、この地の風土を代表するアカマツ林と、その林床のオンツツジや野草が見られます。谷筋の、放棄されたかつての棚田では、湿地から樹林へと移り変わる植生遷移を観察することができます。高木に囲まれた静かな谷戸やため池では野鳥の鳴き声が響き、心穏やかな散歩が楽しめます。絆の棧橋では、湖面に近いデッキから水辺の眺望が楽しめます。



棚田の湿地



★2 絆の棧橋

湖畔の里コース (約90分)

湖畔の里コースは、かつての里山環境を復元した『湖畔の里』へと続くコースです。樹林の中の園路を進み、歩道橋を渡ると、そこには雑木林に囲まれた昔ながらの田畑が広がります。ここでは、昭和30年代の里山や里地を間近に見ることができます。また、季節イベント時には、家族で農作業などの体験を楽しむことができます。湖畔の里に向かう途中、枝葉のすき間から日差しがさしこむ『こもれび広場』や、水辺の動植物を観察できる『谷のハツ橋』、植林された針葉樹が整然と立ち並ぶ『半島広場』、山頂部に広がる『アカマツ広場』など、『湖畔の森』の魅力に満ちたスポットに立ち寄ることができます。



湖畔の里



里山茶臼

その他

『まんのう森園鑑』 『まんのう森園鑑』では、樹木や山野草を間近に見ながら、園路に設置された解説板や樹名板によって、植物の名前や森の不思議を楽しむ学べます。

『ガイドウォーク』 『湖畔の森』では、インタープリターボランティアによるガイドウォークや季節限定のさまざまなプログラムが用意されています。詳細は、下記までお問合せください。 自然生感園：TEL(0877)79-1807



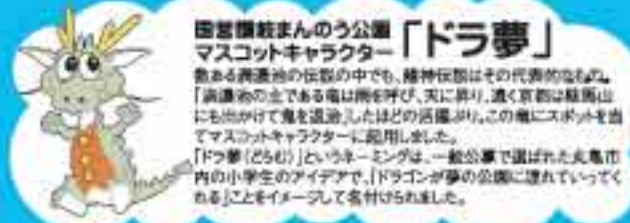
ガイドウォーク



★3 こもれび広場

- 凡例
- パノラマコース
 - アカマツ林と棚田コース
 - 湖畔の里コース

※市公園法により、みだりに樹木等を伐採したり植物を採取することは禁じられています。



湖畔豊かな自然環境を保つためにご協力下さい。

- 動植物は取らないで下さい。
- ゴミはお持ち帰り下さい。
- 煙草、デッキから外れないで下さい。
- 喫煙場所を除いて、すべてのエリアは禁煙です。
- 季節により、ハチ、ヘビなどにご注意下さい。
- 携帯電話の電波がとどかない場所がありますので、ご注意ください。

湖畔の森へのアクセスマップ



まんのお公園管理センター
 〒760-0801 香川県高松市東町1-1-1
 香川の公園ホームページ <http://www.manmookaen.jp/>
 まんの公園情報電話ガイド <http://www.manmookaen.jp/p/17/>

清濃池の歴史

清濃池の概要

清濃池は、大宝年間(701~704年)に讃岐の国守護守朝臣によって築かれました。しかし、築造後100年以上経った弘仁9年(818年)洪水により決壊してしまいました。時の朝廷はその修築に築池使路真人浜経を遣わしましたが復旧することができず、改めて空海に依頼しました。空海は、2ヶ月余りの短期間で清濃池を修築しました(弘仁12年7月)。修築当時の清濃池は、七倉村、神野村、吉野村の3村にまたがり、池の周囲は約8.25km、池の面積は約81haの規模だったといわれています。その後、数回のかさ上げ工事を経て昭和34年(1959年)、現在の清濃池となりました。



空海(弘法大師)像：神野村

空海による修築の特徴

空海(弘法大師)が行った清濃池の修築には、唐(中国)から持ち帰った築造技術が3つ使われているといわれています。
 ①岩山にはさまれた谷に土を盛りたてて水をせき止めるとき、堰堤をまっすぐに作ったのでは、池の水圧に耐えられるように堰堤の盛土量を多くしなければなりません。その一方で、堰堤をアーチ型にすると、少ない盛土量で池の水圧に耐えられ、さらに余水吐(放水路)も短くすることができます。アーチ型の堰堤としたことで工事が大変はかどり

ました。
 ②堰堤池側の水際に護岸のための「しごら工」を設けました。強風時の波や水位の変動は、堰堤の表面を洗掘し、最後は堰堤を決壊させてしまいます。しごら工はこれらから堰堤を守るのに有効でした。
 ③洪水時の余分な水を川に流すため、空龍を開削し、余水吐を設けました。これによって、大雨や長雨で池の水かさが増しても、増水した水を余水吐から流し出すことで堰堤の決壊を防ぎ、安全性が高まりました。それまでは、大雨のたびに堰堤が決壊しないよう、人の手で池のユル抜きをして放水しなければならず、常に堰堤の決壊が危ぶまれていました。

この余水吐は、岩の表面を大工道具の手斧で削ったような形になっていたため、後に弘法大師の「お平斧岩」とよばれるようになりました。



清濃池湖岸護岸(香川県歴史博物館提供)



湖の風景(提供)

清濃池の龍神伝説

かんがい用ため池として日本最大級の規模を誇る清濃池には数々の伝説がありますが、有名な「今昔物語」には清濃池の龍神伝説が書き綴られています。
 昔々、広大な清濃池には竜が棲んでいました。①この竜がへびに化けてひなたぼっこをしていると、②トンビに化けた天狗に捕まり、近江国(現在の滋賀県)の洞窟に閉じこめられてしまいました。
 ③竜は、もとの姿にもどるために必要な水が一滴もなく困っていましたが、同じく天狗にさらわれてきた小僧さんより一滴の水をもらい、飲みました。④たちまち竜の力を取り戻し、小僧さんを助け天狗を退治しました。
 この龍神伝説にあやかってか、清濃池北側の土地(まんのお公園)は竜頭地区と呼ばれていました。まんのお公園の『竜頭の星』や『竜頭の森』は、これにちなみ命名されました。



ため池データ

●堤体形式	中心コア型土堰堤	●取水施設	取水塔高 30m
●堤高	32.0m		内径 5.0m
●堤長	155.8m		吸水管
●貯水量	15,400千m ³		φ800mm 8ヶ
●堤体積	218千m ³	●底層管・隧道延長	197m
●満水面積	138.5ha	●放水量	4m ³ /sec
●流水面積	直接流域 1,290ha 間接流域 8,610ha	●余水吐	側溝余水吐 110m ³ /sec

わかりやすく表すと・・・

- 池の深さは6階建てのビルに相当します。
- 池の周りは約20km、歩いて5時間ほどかかります。
- 池の貯水量は、甲子園球場を樹にすると約26杯分に相当します。
- いっぱいになった時の水面の大きさは甲子園球場が35個入ります。



湖畔の森の自然と人とのかかわり

瀬戸内気候と森の特徴

香川県の気候は、雨が少なく温暖なため、大気が乾燥しているのが特徴です。これを瀬戸内式気候と呼んでいます。また、日照時間が国内でもっとも長いことも特徴のひとつです。さらに、花崗岩が広く分布していることもあり、清濃池周辺の土地は養分の少ないやせた土地となっています。
 このような土地の尾根筋では、やせた土地でも生育できるアカマツが多く、『湖畔の森』一帯に広がるアカマツ林は、瀬戸内地域を代表する樹林といえます。アカマツのほかにも、ネズ、ナツハゼ、ネジキなど乾燥に耐えることができる植物が生育しています。また、林内には低木のオウツツジが多く、春には鮮やかな赤い花をつけます。中腹から谷筋にかけては、コナラ、アベマキ、ヤマザクラ、ソゴなどの落葉広葉樹の雑木林が広がります。樹林内には、コノハガズミやイボタノキのほか、シハイスミレやツルリンドウが彩りを添え、カブトムシやクワガタムシ、オオムラサキなどの昆虫が樹液に集まり、サンコウチョウやオオルリなど野鳥の囀き声が響きます。ときに大空を滑空するオオタカも見られます。
 ため池では、ジュンサイをはじめとした水生植物が生育し、トンボ類やカエル類、サンショウウオといった生きものが観察できます。
 一方で、木材を採るために植林されたものの、今では放置されてしまったヒノキ林やスギ林を見かけることもあります。



オウツツジ



カブトムシ



ニホンアカガエル

シハイスレ

タイフンチョフヤマ

●アカマツ林 瀬戸内気候に強い、アカマツの成長、アカマツの広がり

アカマツは、乾燥しやせた土地に、他の植物に先駆けて生育する樹木です。私たちがよく見かけるアカマツのほとんどは、もともとあった別の樹木が伐採された後に発生したもので、このような樹林を二次林と呼びます。瀬戸内の山林を代表する樹木として多く見られたアカマツですが、昭和40年頃から人が手入れをしなくなったことや、マツノザイセンチュウによるマツ枯れ病の広がりに伴って衰退しつつあります。



アカマツ林

●ハンノキ林 瀬戸内気候、昔のハイマ

ハンノキは、水が貯まる場所でも根の呼吸ができる特別な性質を持っているので、普通の樹木が生えないような湿地でも生きていけます。また、根は放線菌と共生して空気中の窒素を養分にすることができるのでやせた地でもよく育ちます。

●コナラ混交林 こもれびの森、湖畔の森、瀬戸内気候

斜面の中腹など、やや湿り気がある場所には、コナラやアベマキを主体とする雑木の林が広がっています。このような林は、かつては下草刈りや間伐を行って利用されていたので、林内は明るくたくさんの野草がみられました。高度経済成長期以降、薪や下草が利用されなくなると、ソゴ等の常緑樹が増え、現在のようなコナラ混交林が形成されました。



コナラ混交林

●ヒノキ林・スギ林 時の流れ、平野の森

ヒノキ林やスギ林は、建築や家具といった木材用に植林されたものです。よい木材を採るためには育林の管理作業が欠かせません。下草刈り・枝打ち・除伐・間伐などの管理作業を数十年続けて、やっと木材として利用できる大きさとなります。ヒノキはやや乾燥したところを好み、スギは湿潤なところを好みます。

人と自然のつながり

かつて香川県では、乾燥した気候を利用して、製塩や製糖、瓦の製造が盛んに行われていました。そのための燃料として、火力の強いアカマツは大変重宝されていました。また、人々の生活には、里山林としてコナラ混交林が密接にかかわっていました。伐採された樹木は、薪や皮の原料として、また、シタケ栽培のホダ木として使われました。刈り取った下草や落ち葉は、田畑の肥料や苗床、家畜のエサに使われました。このように、里山の植物は、私たちの生活になくはならない作物のひとつとして管理され、育てられていたのです。その結果、アカマツやコナラが優占する二次林が広がり、そこに多様な生きものが生息・生育していました。
 また、香川県をはじめ瀬戸内地方は降水量が少ないために多くのため池が作られました。ため池は人によって管理された水域で、田んぼの水の確保のほかには洪水の調整や防火用水、良好な景観の形成、親水空間の提供などたくさんの機能を担っています。さらにため池は、多種多様な豊かな生態系を育んでいます。



水田耕作

●ため池

ため池は、堤側の水深が深く上流側が浅い構造になっています。そのため、水深や土壌の違いから、さまざまな生きものが生息・生育しています。ため池では、農作業のサイクルに合わせて一年を通して水位が変わります。そして、数年ごとに池干も行われます。このような水位の変動は、ため池の生態系をバランスよく保ちます。維持管理されるため池は生きものたちの宝庫です。

湖畔の森散策ガイド

